



## 射水市名誉市民

た な か と し ゆ き

# 田中 利之

Tanaka Toshiyuki

生年月日～没年月日

昭和2年10月1日 生  
～ 令和2年4月25日 没

決定年月日

令和元年11月26日議決

主な経歴

田中産業株式会社代表取締役会長  
中央運輸興業株式会社代表取締役会長

## 功 績

田中利之は、射水郡新湊町堀岡(現射水市)に生まれた実業家です。

田中家は明治期に元山港(朝鮮半島)に渡り、田中漁場と大規模果樹栽培を開拓し、財を成していました。田中家七代目として誕生した利之は、元山港で少年期を過ごし、網元跡取りとして仲間数百人と家業であるニシン漁と大規模果樹経営に従事しました。

昭和20年、田中が18歳の時、一家は敗戦により全財産を失い堀岡へ戻りました。堀岡でブリ漁等に従事した後、昭和24年、新潟県高田市(現上越市)へ移り直江津沿岸で築堤工事に従事、昭和25年には帝石頸城工業所場長の由比万次郎(のちの帝国石油社長)と出会い、重機土工や機械運搬等を請け負い、高田市で田中産業を起業しました。昭和36年には田中産業を法人化した後、佐川急便の創業者である佐川清と出会い、東京に進出して幹線輸送を請け負うなど、田中産業を新潟県を代表する企業グループに成長させました。

昭和62年、堀岡の生家付近で発生した火災の際、消防職員や消防団員の懸命な消火活動に感銘を受け、以来、消防設備の充実をはじめ、市民病院の高度医療機器の導入等、永年にわたり、多額の寄附を通じ、ふるさとの発展や住民福祉の向上などに大きく貢献しました。

「森の恵みの水が里地を潤し、海に至り海の恵みをもたらしている」という自然への感謝の思いと強い信念から、「100年の森づくり」として、資源の採掘が終わった採石場跡地にケヤキやオオヤマザクラなど地域固有種の木々を植樹する里山再生に取り組みました。この取組は、SDGs(持続可能な開発目標)が提唱される以前から実践されており、それはかつての漁業で培った「かぶす」(\*)の精神に基づき、短期的な利益を優先するのではなく、長期的に「社会良し」「会社良し」「社員良し」という「三方良し」の付加価値を生み出すことを目指して実践してきた信念に基づくものであるといえるでしょう。また、我が国が直面する高齢化社会や自然災害の激甚化などの課題解決を図るための「人づくり」の大切さにも早くから着目し、看護、介護、土木技術を学ぶ学生を支援するため「田中育英会」を創設しました。

令和2年の逝去後もこれらの取組は、「地域社会に貢献していく企業であり続ける」という田中産業の企業理念として残り、現在まで引き継がれています。

\* かぶす 富山県の漁師言葉で、「みんなで分配すること」を意味する。